

目指す学校像	学校教育目標「未来に向かって力強く生きる ひとみ輝く 和土っ子の育成」の具現化に向け、児童、保護者、地域、教職員の「一人ひとりがキラリと光る」を目指す。
--------	--

重点目標	1 自分を大切に、相手を大切に学び合う学校 (すべての児童の可能性を引き出す学びの推進) 2 心身の健康を高め、思いやりの気持ちを育む学校 (豊かな人間性と健やかな体の育成の充実) 3 地域とともに歩み、信頼される学校 (小・中一貫教育「花笑み教育」の推進 コミュニティ・スクールの充実) 4 「チーム和土」でつくる持続可能な学校 (学び合う高め合う組織の構築 教育環境の整備の推進)
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価	
年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会による評価	
1	学力向上 〈現状〉 ○多くの児童が、落ち着いた学習に取り組んでいる。 ○自己肯定感が低く、自信をもって学習に臨めない児童がいる。 ○全国学力・学習状況調査では全国の平均値を、さいたま市学習状況調査では市の平均値を下回っている。 〈課題〉 ○学ぶことの楽しさを十分に味わわせ、学びに対する興味・関心を高める必要がある。 ○国語では、文章の主語と述語の関係を十分に理解できるようにする必要がある。 ○反復や習熟に取り組む時間や、自らの学びを振り返る時間の確保が必要である。 ○集めた情報を関連付けられる指導や、根拠をもとに自分の考えをまとめられる指導が求められている。	・児童理解を一層深め、個々の学習指導と支援をより大切にした授業改善の実施	①個々に応じた細やかな学習指導と支援の実施 ②めあての明確化と振り返りの時間の確保の実施 ③資料の読み取りに対する丁寧な指導の実施 ④学習内容の定着を図り、自信をもたせるために、デジタルドリル等を活用した練習問題の計画的な取組 ⑤授業改善を図るため教育委員会による学力向上カウンセリング研修と学力調査の結果の分析に基づいた授業改善の実施	①児童の学校評価 No11「粘り強い学習」と、No12「わかりやすい授業」で肯定的評価がともに93%以上になったか。 ②めあての明確化と振り返りの時間を確保した授業に取り組むことができたか。 ③学力向上カウンセリング研修と学力調査の分析に基づく授業改善の方策を立て、実施することができたか。	○実態を踏まえ具体的方策に日々取り組んだ。また小テストやデジタルドリル等を活用して学習内容の定着も進めた。 ○学力向上カウンセリング研修や各種指導力向上に関する研修を通して、教える授業から児童が自ら考える授業への改善を進めた。 ○全国・市の学力調査の分析から課題を改善するための方策を各教科において取り組んだ。 ○学校評価の児童No11では約96.6%で2.9、No12では約94.5%で2.0pともに上昇した。	A	【課題】 ・主語と述語を意識して文を読んだり、書いたりできる児童の育成 ・自ら学ぶ児童の育成 【改善策】 ○各教科の指導や教科横断的指導において、主語と述語を考えて文を読む・文を書く取組の推進 ○個に応じた指導・支援の一層の推進	学校運営協議会からの意見・要望・評価等 実施日令和7年2月4日 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 ○学校評価の児童No11、No12、No14は、学校全体の取り組みの成果である。引き続き学力向上に努めてほしい。 ○主語と述語を考えて、文を読む・文を書く力は大切である。領いているが、話の内容が十分に理解できていない可能性もある。また、単語の意味を理解していない可能性もある。引き続き国語力の向上に努めてほしい。 ○ICT活用が学力向上につながっているか、保護者はよく分かっていない可能性がある。学校から情報発信してほしい。	
		・ICTを活用して、児童と教師が共に学び合う授業の推進	①国語科を中心にして、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を取り入れ、目標をもって主体的に学ぶ授業の実施 ②ICTを積極的に活用し、意見交流など児童同士が学び合う授業の実施	①教職員の学校評価(新規)で学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を取り入れた授業に関する項目で肯定的評価90%以上になったか。 ②児童の学校評価No14「ICT等の活用」で肯定的評価98%以上になったか。	○学年に応じて、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」やICTを活用した授業を進めた。 ○他校の好事例を参考にICTやクラウドを活用した、新しい授業に挑戦することができた。 ○児童の学校評価No14では約99.3%で0.6p上昇した。	A	【課題】 ・授業の工夫の推進 【改善策】 ○学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を活用した学びの推進 ○ICTを活用した学びの推進 ○クラウドを活用した学びの推進		
2	安心・安全 〈現状〉 ○クラス替えがなく、児童同士お互いに分かり合っている様子が見られる。 ○児童一人ひとりに声をかけ、目を配り、安心できる信頼関係の構築に努めている。 〈課題〉 ○良好な友達関係を築き、継続できるようにすることが必要である。また、保護者との連携も大切に、共通理解を図る必要がある。 ○児童のよいところを伸ばし、自信をもたせ、自分の夢に向かって努力する態度を養うことが求められている。 ○児童の体力を向上させ、心身ともに健やかな児童を育てることが求められている。 ○安全に対する意識を向上させ、万が一事故が発生した際には適切な行動がとれるようにする必要がある。 ○計画的に樹木剪定を進め、安心して活動できる環境整備が必要である。 ○教育相談体制の再整備が求められている。	・一人ひとりのよさを認め合う豊かな人間関係づくりの推進 ・運動の楽しさや喜びを味わわせる授業づくりの推進	①スマイルウィーク等を活用した児童一人につき各学期1回以上の面談の実施 ②自立と挑戦を促す指導(コーチング)の実践 ③児童への積極的な称賛の言葉がけの実施 ④和土小スマイルプロジェクトの着実な実施 ⑤年2回の個人面談の実施 ⑥体育科の授業で、安全な活動の場を確保しつつ、全力で取り組む運動の実施	①児童の学校評価No1「学校へ行くのが楽しい」で肯定的評価92%以上になったか。 ②場面を捉え自立と挑戦を促す指導(コーチング)を個々に行うことができたか。 ③児童の学校評価No15「先生の称賛」で肯定的評価93%以上になったか。 ④和土小スマイルプロジェクトが実施できたか。 ⑤体育科の授業において、安全で工夫した活動の場で、全力で取り組む運動が実施できたか。	○スマイルウィークや和土小スマイルプロジェクト等を着実に実施し、児童理解に努めた。 ○日々の声掛けや面談等を通して、児童の頑張りや成長について積極的な称賛に努めた。 ○係活動や委員会活動、行事の取組の際に、児童に決めさせる場面を設定し、自立と挑戦を促す指導を意識して取り組んだ。 ○体育科の授業では、学年に応じて全力で運動できる取組を行った。 ○児童の学校評価No1では約91.9%で4.0p、No15では約95.3%で2.3pともに上昇した。	A	【課題】 ・児童とのふれあいの一層の推進 【改善策】 ○児童とのコミュニケーション(会話やふれあい等)の時間の確保 ○凡事徹底・率先垂範の推進 ○自立と挑戦を促す指導の推進 ○いじめなどに対する毅然とした指導の推進	○小規模校のよさとして、児童によく目が届くと思う。引き続き児童を大切に育んでほしい。 ○いじめの未然防止に向け、相手の気持ちを大切にしている指導を引き続き努めてほしい。 ○家庭の役割も大きいと考えている。母親だけでなく父親の意見も大事であると考えている。 ○いじめに対する認識は現在と保護者世代では違う可能性もある。理解を得ていくことが大切だと考えている。 ○樹木剪定は、地域としても心配している。教育委員会に引き続き働きかけてほしい。	
		・児童が安心できる環境整備の実施	①専門家等による教育相談の推進 ②AED、エビベン、不審者対応等、安全に関わる教職員研修の実施 ③児童が安心して活動できるように教育委員会との連携や、職員による計画的な樹木剪定の実施 ④計画的な安全点検の実施と速やかな対応の実施	①専門家等による教育相談を進めることができたか。 ②安全に関わる研修を5回以上できたか。 ③計画的な樹木の剪定を行い、管理ができたか。 ④全職員による安全点検の実施と、修繕等が必要な箇所への1日以内の対応ができたか。	○専門家等による教育相談を児童や保護者に勧め、相談の機会を増やした。 ○管理職による毎日の校内巡視や計画的な安全点検が実施できた。 ○安全に関わる研修(火災・地震対応、AED活用・心肺蘇生対応、アレルギー・エビベン対応、不審者対応)を行った。 ○修繕について、その日の対応を進めた。 ○樹木剪定は、6割程度進んだ。	B	【課題】 ・児童が安心できる学校づくり ・安心安全な施設の維持管理 【改善策】 ○不測の事態に対する日頃からの準備 ○着実な校内巡視と職員による安全点検の実施 ○樹木の剪定の推進		
3	地域と歩む学校 〈現状〉 ○開校150周年の思いを共有し、学校運営協議会を各学期に一度開催(計画)して、学校・家庭・地域の役割について考えている。 ○異校種(保・中・高)間の交流ができています。 〈課題〉 ○和土地域のアイデンティティ(地域よさや誇りへの理解・地域への愛着)を育てることが求められている。 ○「和:Partnership」を育むため、小・中一貫教育「花笑み教育」を計画的に推進する必要がある。 ○保護者や地域の方々の教育活動への理解を図ることが求められている。	・小・中一貫教育「花笑み教育」の推進 ・教育活動等の情報発信の推進	①城南中・新和小と連携した、小・中一貫教育「花笑み教育」の推進と情報発信 ②地域の方々の協力による授業の実施 ③学校運営協議会の熟議による和土地域で育てたい子どもの姿の共有と、学校、家庭、地域における具体的な取り組みの明確化	①小・中一貫教育「花笑み教育」を計画的に実施できたか。 ②児童の学校評価(新規)で、和土地域のアイデンティティ(地域よさや誇りへの理解・地域への愛着)に関わる項目で肯定的評価80%以上になったか。 ③学校・家庭・地域で、和土地域で育てたい子どもの姿の共有を進めることができたか。	○3校の連携や保護者・地域の方々の協力で計画的に花笑み教育の取組ができた。 ○授業において和土地域への気付き・よさを考える場面を設定できた。 ○学校・家庭・地域で、和土地域で育てたい子どもの姿の共有が進められなかった。 ○児童の学校評価No9では約83.8%となり、評価指標を超えた。	B	【課題】 ・和土地域のアイデンティティの育成 【改善策】 ○育てたい子ども像の具現化に向けた方策の検討 ○花笑み教育の充実	○3校が連携をしていくことは大切だと考えている。 ○今後も花笑み教育を進めてほしい。 ○中学校の先生が指導してくれることはよいことだが、小学生に分かりやすい・伝わりやすいようにしてほしい。 ○家庭、地域の協力があつての教育活動だと考える。連携を大切にしてほしい。 ○情報発信に今後も努めてほしい。 ○保護者の学校評価の回答率を上げる工夫に取り組んでほしい。	
		・教育活動等の情報発信の推進	①学校だより等を活用した、教育活動の情報発信 ②「和土っ子ブログ」の開設等、学校Webページの工夫	①教育活動の計画的に発信ができたか。 ②「和土っ子ブログ」を定期的に更新できたか。 ③保護者の学校評価No1「教育活動の発信」で94%以上になったか。	○和土っ子ブログで教育活動の発信をした。和土っ子ブログは12月末までに60回以上更新、約5,600回以上のアクセスがあった。 ○保護者の学校評価No1では約91.8%となり、評価指標に届かなかった。	B	【課題】 ・教育活動の発信方法の検討 【改善策】 ○発信の方法や内容の工夫・改善の検討 ○和土っ子ブログの更新方法の検討		
4	教員の資質向上 〈現状〉 ○エバンジェリストが推進役となり、ICTを活用した授業を進めている。 ○教育委員会の施策に基づき、授業改善に取り組んでいる。 ○小規模校としての業務改善を進めている。 〈課題〉 ○ICTを活用した学びや、生徒指導等に対して、指導力の向上が常に求められている。 ○ICTを活用した業務改善が求められている。 ○教職員の成長が実感できる研修が求められている。 ○対話に基づく受講奨励を通して、主体的な教師の学びが求められている。	・校内課題研修等を活用した、主体的な教師の学びの推進	①校内研修の体制を再整備するとともに、ICTや学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を活用した公開授業・研究授業の実施 ②教職員同士の年3回以上の授業参観の実施 ③対話に基づく受講奨励による、主体的な教師の学びの推進 ④時間のマネジメントを推進した業務改善の推進	①校内研修の体制を再整備し、ICTや学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を活用した研修が進められたか。 ②計画的に公開授業・研究授業等が実施できたか。 ③教職員同士の年3回以上の授業参観ができたか。 ④教職員の学校評価における「研修」の項目において肯定的評価が90%以上になったか。 ⑤教職員の時間外在校時間が昨年よりも10%減にすることができたか。	○校内研修の体制を再整備し、ICTや学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を活用した研修を進めた。 ○計画的に公開授業・研究授業を実施した。また、職員同士の授業参観も進められた。 ○教職員の学校評価「研修」では、約96.2%となり、評価指標を超えた。 ○学校全体では、12月までの時間外在校時間の合計の平均は約348時間となっており、昨年度の同時期と比較すると約15時間増加した。	B	【課題】 ・校内研修のさらなる推進 【改善策】 ○研修の成果が実感できるような取組の検討 ○J Tと職員の学び合いの推進 ○受講奨励に基づく、個に応じた研修の推進	○先生方の研修は大切だと考えている。今後も継続してほしい。 ○研修の成果として、学習の進め方に前進が見られる。児童も成長しているように感じている。 ○ICTを活用することは、よいことばかりなのかについて検討する必要もあると考えている。 ○小規模校の忙しさも理解できる。子どもたちを大切にしながら、引き続き先生方の軽減負担に取り組んでもらいたい。	